

早稲田大学大学院 教育学研究科
2026年度 修士課程入学試験問題の訂正内容

<一般入試 専門科目>

【国語教育専攻】

【共通一】 10ページ 本文 37行目

<誤> 「… ごろりと仰向けに■て話すのです。…」

<正> 「…ごろりと仰向けに寝て話すのです。…」

以上

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般入学試験問題
〔専門科目〕 〔国語教育専攻〕

解答上の注意

- 一、国語教育専攻の入学試験問題は、〔専門科目・選択〕（配点60％）と〔専門科目・共通〕（配点40％）とに分かれています。
- ①「専門科目・選択」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（選択一／選択八）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・選択」で 解答すべき問題
国語科教育研究指導	幸田 国広	選択一 国語教育
国語科教育研究指導	菊野 雅之	
日本語学研究指導	松本 正恵	選択二 日本語学（日本語教育を含む）
日本語学研究指導	仁科 明	
国文学研究指導	松本 直樹	選択三 古典文学 I 上代文学
国文学研究指導	新美 哲彦	選択四 古典文学 II 中古文学
国文学研究指導	福家 俊幸	選択五 古典文学 III 中世文学
国文学研究指導	海野 圭介	
国文学研究指導	天野 聡一	選択六 古典文学 IV 近世文学
国文学研究指導	谷口 高志	
国文学研究指導	内山 精也	選択七 中国古典文学
国文学研究指導	五味渕 典嗣	
国文学研究指導	和田 敦彦	選択八 近代文学

②「専門科目・共通」（共通一／共通二）は、志願者全員が解答する問題です。

- 二、「専門科目・選択」「専門科目・共通」とともに、解答用紙は「問題番号」ごとに一枚ずつ使用すること。
- ・全ての解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名を必ず記入すること。
 - ・「専門科目・選択」については、空欄に「問題番号」（例「選択一」「選択二」など）を必ず記入する
はつ。
 - ・「専門科目・共通」については、「共通一」「共通二」それぞれ所定の解答用紙を用いること。

三、解答用紙のホッチキスは、はずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。

四、問題用紙は「十二枚」（本ページ含む）、解答用紙は「三枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

「選択一」 国語教育

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次のA～Hのうちから三題を選び、それぞれ簡潔に説明しなさい。

- | | |
|-----------|------------------|
| A 国民科国語 | B 一読総合法 |
| C 「サクラ」読本 | D 指導と評価の一体化 |
| E 『国語の力』 | F 「情報の扱い方」に関する事項 |
| G 保科孝一 | H 言葉による見方・考え方 |

二、次のI～Nのうちから二題を選び、具体的に論じなさい。

- | |
|------------------------------------|
| I 文部省著作『中等国語』『高等国語』の「国語学習の手引き」作成経緯 |
| J 大村はま国語単元学習の特徴 |
| K 荒木繁と教育科学研究会の論争 |
| L 高校選択科目「国語表現」の歴史の変遷 |
| M 綴り方・作文論争における国分一太郎の主張 |
| N PISA読解力調査のねらいと特徴 |

三、今後のデジタル教科書の効果的な扱い方と課題について、校種を明確にした上であなたの考えを述べなさい。ただし、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域について、それぞれ具体的な実践像を例示しながら論じること。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択二〕 日本語学

一 次のA～Lの事項のうちから四題を選び、説明しなさい。

(解答の際には、選択した問題番号を明記すること。)

A	契沖	B	『ロドリゲス日本大文典』	C	ヴォイス
D	開合	E	漢文訓読文	F	気づかない方言
G	神代文字	H	ソシユール	I	ターン
J	音便	K	受給・受益の表現	L	TPR

二 次のM～Oのうちから一題を選び、具体的に論じなさい。

(解答の際には、選択した問題番号を明記すること。)

- M 係り結びの機能とその崩壊過程について
- N 多義語と同音・同訓異義語の境界について
- O 日本語における動詞の自他(自動詞・他動詞)の問題について

三 日本語学とはどのような学問か。専門外の人にもわかりやすいように、具体例を交えながら、学問領域・研究対象・研究方法・研究の意義・研究の応用可能性等について多角的に述べなさい。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択三〕 古典文学（I） 上代文学問題

一、次の（A）～（D）のうちから、二題を選択して論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- （A）『古事記』の三巻構成
- （B）『先代旧事本紀』の成立と概要
- （C）「出雲国造神賀詞」の成立と概要
- （D）『万葉集』所収歌の時代区分

二、次の（E）～（L）のうちから、三題を選択して簡潔に（一題あたり解答用紙五行以内を目安に）説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- | | | | |
|-----------|----------|----------|-----------|
| （E）神阿多都比売 | （F）国引き神話 | （G）迦毛大御神 | （H）夜刀神 |
| （I）七夕歌 | （J）筑紫歌壇 | （K）春愁三首 | （L）安騎野遊獵歌 |

三、上代文学作品の享受史を踏まえ、現代においてそれを研究する意義と、志願者自身の研究テーマや研究方法について、具体的かつ簡潔に述べなさい（解答用紙一〇行以内）。

（上代文学問題 以上）

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択 四〕 古典文学(Ⅱ) 中古文学

解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述せよ。

- (A) 『伊勢物語』の「昔男」と在原業平
- (B) 『紫式部日記』の特質
- (C) 『源氏物語』の三部構成
- (D) 『源氏物語』における禁忌の恋と物語の展開

二、次の(E)～(M)のうち三題を選択して、簡潔に説明せよ。

- (E) 『大和物語』(F) 『一条摂政御集』(G) 『浜松中納言物語』
- (H) 『栄花物語』(I) 『更級日記』(J) 『讃岐典侍日記』
- (K) 紀貫之 (L) 物語文学における話型
- (M) 平安時代の文学における召人

三、中古文学を学校教育で学ぶ意義とは何か、あなたの考えを述べよ。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択五〕 古典文学（Ⅲ） 中世文学

一、次の①～⑧の中から二題を選択して、詳しく論述しなさい。
なお、解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

- ① 院政期から鎌倉前期の政治と文学について
- ② 南北朝から室町期の政治と文学について
- ③ 勅撰和歌集の成立と和歌の家の動向について
- ④ 仮名で書かれた中世散文文学の特質について
- ⑤ 漢籍の受容と中世文学の生成について
- ⑥ 王朝物語の享受と中世文学の生成について
- ⑦ 中世における宗教と文学について
- ⑧ 中世における女性作者の文学について

二、次の①～⑩の中から三題を選択して、簡潔に説明しなさい。
なお、解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

- ① 宇治拾遺物語
- ② 発心集
- ③ 建礼門院右京大夫集
- ④ 平家公達草紙
- ⑤ 新古今和歌集
- ⑥ 詠歌大概
- ⑦ 竹むきが記
- ⑧ 鼠の草子
- ⑨ 兩度聞書
- ⑩ 曾我物語

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択六〕 古典文学（Ⅳ） 近世文学

一、次の①～④の中から二題を選択して、文学史的な視座から詳しく論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- ① 近世期における書籍の出版・流通について
- ② 近世期における政治改革と文学との関わりについて
- ③ 近世期における書簡の果たした文化的役割について
- ④ 近世期における『伊勢物語』研究の変遷について

二、次の①～⑦の中から三題を選択して、文学史的な視座から簡潔に（一題あたり解答用紙五行以内）説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- ① 仮名草子
- ② 赤穂事件
- ③ 賀茂真淵
- ④ 『雨月物語』
- ⑤ 薦屋重三郎
- ⑥ 『南総里見八犬伝』
- ⑦ 尊皇攘夷運動

三、近世文学を学校教育で学ぶ意義について、具体的かつ簡潔に（解答用紙一〇行以内）考えを述べなさい。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
 修士課程 一般・外国学生入学試験問題
 「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択七〕 中国古典文学 問題

〔一〕 次の文を読んで、設問に答えなさい。

山不在高、有_レ僂則名。水不在深、有_レ龍則靈。斯是陋室、惟吾德馨。
 苔痕上_レ階綠、艸色入_レ簾青。談笑有_レ鴻儒、往來無_レ白丁。可以調_レ素琴、
 閱_レ金經。無_レ絲竹之亂耳、無_レ案牘之勞形。南陽諸葛廬、西蜀子雲亭。
 孔子云、何陋之有。

〔注〕・白丁……無位無冠の民。 ・金經……仏典。 ・案牘……行政文書や書類。

〔設問一〕 右の全文を、書き下し文、または拼音に改めよ。

〔設問二〕 右の全文を、現代語訳せよ。

〔設問三〕 傍線部「西蜀子雲」とは誰のことか。その氏名を記した上で、その人物の文化史的意義について知る所を記せ。

〔設問四〕 右文の作者は、劉禹錫である。劉禹錫の生きた時代を明らかにした上で、その文学史的功績について説明せよ。

〔二〕 次のア～オの中から一つを選択し、その記号を解答欄に記した上で、説明ならびにあなたの考えを記しなさい。

ア 「唐詩、宋詞、元曲、明清小説」説について
 イ 江戸時代における唐詩と宋詩の争いについて
 ウ 「小説」という語の、中国における伝統的意味と近代的意味の相違について
 エ 「漢文」が「国語」に含まれる理由について
 オ 日本漢詩文の、国語教材としての意味について

〔三〕 次の(A)～(L)の中から三つの項目を選び、それぞれの文学史ないしは文化史的意味を中心に説明しなさい。

- | | | |
|--------------|-------------|----------------|
| (A) 五臣注『文選』 | (B) 「古詩十九首」 | (C) 陶淵明「五柳先生伝」 |
| (D) 齊梁体 | (E) 李絶杜律 | (F) 元輕白俗 |
| (G) 江西詩派 | (H) 江湖詩派 | (I) 白行簡「李娃伝」 |
| (J) 瞿佑『剪灯新話』 | (K) 『爾雅』 | (L) 朱熹『四書章句集注』 |

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

「選択Ⅷ」 近代文学

一 日本の近代文学とメディアとのかかわりについて、あなたの考えるところを述べな
よ。

二次の(A)～(E)の中から一題を選択して論じなさい。

- (A) 明治期の政治小説について
- (B) 『赤い鳥』と児童文学について
- (C) 「小説の筋」論争について
- (D) 転向文学について
- (E) 日本近代文学における検閲と言論統制について

三次の(A)～(G)の中から三題を選択して説明しなさい。

(「」は作品名、『』は雑誌名を示す)

- (A) 二葉亭四迷
- (B) 「破戒」
- (C) 『明星』
- (D) 『文芸時代』
- (E) 林芙美子
- (F) 「夏の花」
- (G) 「仮面の告白」

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

【共通】

一、次の文章を読み、国語科の授業を通じて教室にどのような「場」を作ることができるか、あなたの考えを述べなさい。

「場」という言葉があります。「場」は大事な状況を表す言葉として、わたしたちの社会において、人と人との係わりの要をなす時間や空間を指す言葉として、あざやかな使われ方をしてきた言葉です。

「立場」の場。「持ち場」の場。「現場」の場。「仕事場」の場。「相場」の場。「正念場」の場。「土壇場」の場。「隠れ場」の場。「遊び場」の場。「見せ場」の場もそうです。あるいは、「戦いの場」や「出合いの場」のような言い方もします。

「修羅場」のような場もあれば、「濡れ場」の場、「逃げ場」の場、「死に場所」というような場もあります。あるいは、「市場」の場、「やっちゃ場」の場もあれば、また「飲火場」の場もあります。「場あたり」の場もあれば、「その場」の場もあります。

「居場所」の場は、自分はどこにいるかという問いの場です。そのように「場」という言葉に表されてきたのは、人と人のあいだのコミュニケーションの光景であり、風景です。ものを引き寄せる磁力がはたらく場が「磁場」といわれるように、人と人の係わり、交わりのあるべきところが、場です。

人生が見えてくる「場面」があり、「場所」があります。場面も、場所も、人生の場です。「場を得る」、逆に「場を失う」というように、人のありようを左右するのも「場」です。一場敵を踏むというのは、経験の意味を自ら手に入れるということですが、今はほとんど見られなくなりしましたが、議論小説、座談小説ともいべき、議論、座談のおもしろさが物語をおりなす文学の楽しみが、かつてありました。その一つに、石川啄木の「我等の一回と彼」という小説があります（『石川啄木集』古谷網武編による）。

明治という時代の終わりとともにわずかに二十七歳で世を去った啄木が、後の世にのこした遺作が『我等の一回と彼』ですが、そこに印象的に綴られるのは、「我等の一回と彼」が「場」を共にして、議論を交わすことで、心を開いてゆく光景です。

「我等の一回」というのは新聞社の社会部の連中です。社には会議がある。しかし「我々の一回は、会議などとなると、妙に背沈黙を守っている」ばかり。議題といっても、出勤時間を守れとか何とか、そういうことばかり。「彼」も同じ社会部の記者だけれども、会議では一切口を開かない。ただ目立たないけれど、どこか一癖あって、ふだんでも人が何か言くと、最後になって、ひょいと口を入れて、ひっくりかえしてしまうというふうで、けっして胸を開かない。

それが、ある夜、帰りにふと、私が出会い頭に、彼を呑みに誘う。その夜遅くなって、彼は私の家に泊まることになる。そうして、それから、彼は「我々の一回」にくわるようになる。そうして、打ち解けて議論するようになって、彼の態度が違ってくる。

目に付いたのは、それから高橋（それが彼の名です）の様子の何ということなしに欣々としていたことであつた。何処がどうと取り立てて言うほどの事はなかったが、（又それはど感情を表す男ではなかったが）、同じ陸頭を抱いて天井を眺めているにしても、その顔の何処かに、世の中に張り合いが出来たとでもいうような表情が隠れていた。

「彼」が「我等の一回」と「場」を共にするようになって、私が気づいたことがあります。一つは、彼の議論の姿勢です。彼はいつも、ごろりと仰向けに寝て話します。寝ころんで話す。会議などではできない話し方です。しかしそれができる「場」が、彼が心を開くことのできる「場」だった。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

もう一つは、彼の議論の方法です。彼が自分にまもるものは、一かくせねばならないと言ふことでなく、かく成らねばならないと言ふことです。私は奇立つて「君は一体、決して人に底を見せない男だね」と言ふと、彼は静かに言います。「底？ 底って何だ？ 何処に底があるんだ？（……）人はよく、少し親しくなると、心の底を打明けるなんて言ふさ。然しそれを虚心で聞いてみ給え。内緒話か、噂目か、空想に過ぎない。厭なこつた」

何が正しく、何が間違っているか、ではありません。つねにまずおたがいのあいだに求められなければならないのは、じぶんたちが「いまいるここ」が良き「場」たりえているかどうか、です。

今日、改革が望まれるさまざまな問題は、じつはすべて「場」の問題です。改革というのは、つねに「場」の改革だからです。

家庭の問題というのは、家庭がそれぞれにとっての「場」たりえているかという問題です。教育の問題というのは、教育がそれぞれの拠つて立つ「場」たりえているかという問題です。街の問題、地域の問題というのは、街が、地域がみんなにとって楽しい「場」たりえていないという問題です。

今日の問題の多くは、そうしたもつとも切実なものとしての「場」の思想が、おたがいのあいだに、いつか見失われるままになった。そうして、何もかもあたかもゆきあたりばつたりのごとくなくなってしまった、というところからきているのではないのでしょうか。

啄木は「しごと」を「為事」と書いて、「仕事」とは書きませんでした。そうして、「我等」の生活が、「今日」というところを昨日と書き、明日というべきところを今日と言ふ」ばかりで、「如何にこの一日を完成すべきか」ということでは無い」こと、そうやって一日先、一日先と駆けていけばかりだと言いました。それが、『我等の一面と彼』に啄木が描いた日本という国のあり方です。わたしたちにとっての、そうした「今日」の「慌ただしく、急がしい」「急ぐの意味の、急がしい」あり方は、今でも変わっていません。

「場」が開かれた「場」がなければ、のこるのは「閉塞感」だけになってしまいます。「閉塞感」というのは、どこにも「行き場」がないという気分のことです。

あらためて、一人一人にとってゆきさしならない意味をもたらしものとして「場」という言葉を、そして一人一人にとっての感じ方、考え方の尺度になってきたのは「場」をつくるという思想だったはずだ、ということを考えます。

「場」という良き言葉をもっているにもかかわらず、わたしたちには、なくてはならない「場」というのが見えなくなってしまうということはないでしょうか。「場」の思想がとりもどされなければならない。「場」をつくれなければ未来もまたないからです。

（長田弘『なつかしい時間』による）

修士課程
一般入學試驗問題

【共通一】

近ごろ、ある僧の家に、大きな橘の木ありけり。①実の多くなるのみにあらず、その味も心殊なりければ、主の僧また類なきものになん思へりける。

かの家の隣りに、年たかき尼一人住みけり。重病を受けて、床に臥して、日ごろ物も食はず、湯水なんども、はかばかしく呑み入れぬほどになれりけるが、この橘を見て、「② かれを食はばや」といひければ、すなはち、隣りへ人をやりて、「かくなん」といはせたりけれど、情なくかたく惜しみて、③ 一つもおこせず。

この病人のいはく、一いと④やすからず。心憂きことかな。病すでに責めて、命、今日、明日にあり。たとひよく喰ふとも、二つ三つにや過ぐべき。それほど物を惜しみて、我が願ひをかなはせぬは、口惜しきわざなり。我、極楽に生れんことを願ひつれど、今にいたりては、かの橘を食みつくす虫とならんと。⑤その憤りを遂げずは、浄土に生るることを得じ」といひて死ぬ。

隣の僧、⑥このことを知らずして日ごろ過ぎけるほどに、この橘の落ちたるを取りて喰はんとて、皮をむきて見るに、橘の袋ごとに、白き虫の五、六分ばかりなるあり。驚きて、「いづれもかかるなんめりや」と思ひて見れば、そこらの橘、さながら同じやうになんありける。年を追ひてかくのみありければ、「何に⑦せん」とて、果てにはその木を切り捨ててげり。

願力といひながら、さしも多くの虫となりけんことは、いみじき不思議なり。かれ、悪事を思ふは、下りさまのことなれば、かなひやすくは侍るにこそ。

- 12

研究指導	
教員名 ()	
受験番号	
氏 名	

受験番号	
------	--

氏 名

修士課程 一般・外国学生入学試験 解答用紙

「専門科目」

【国語教育専攻】

大学記入欄

選
択
()

裏面に続く

← 裏面を使用する場合に「」から記入する

↑

↑ 15156P

↑

研究指導	
教員名 ()	
受験番号	
氏 名	

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験 解答用紙

〔専門科目〕

〔国語教育専攻〕

大学記入欄

問題番号
共通一

← 裏面を使用する場合ここから記入すること



↑ 裏面を使用する場合ここから記入すること



研究指導	
教員名 ()	
受験番号	
氏 名	

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験 解答用紙

【専門科目】

【国語教育専攻】

大学記入欄

問題番号
共通二

↑

裏面「続」

↑

裏面を使用する場合ここから記入すること ←

←

↑
151566

